

子育て家庭への支援の充実

めざす姿

すべての子育て家庭が、それぞれ必要に応じた支援を受けながら、地域で助け合い、充実した生活を送っています。子育て家庭の生活基盤の安定が図られ、家庭内に愛情が満ち、子どもの健やかな成長へとつながっています。

平成27年度の主な取り組み

施策24 子育て家庭への経済的支援の充実

- 各種手当・医療費の助成
児童手当・児童扶養手当・児童育成手当の支給、乳幼児・義務教育就学児・ひとり親家庭等への医療費助成事業の実施により、子育て家庭への経済的支援を行いました。特に、義務教育就学児医療費助成制度(マル子)については、所得制限撤廃により、平成28年7月から支給対象者を拡大することを決定し、実施に向けて準備・調整を行いました。
- 多子軽減の充実
幼稚園就園奨励費、認証保育所保護者補助金、多子軽減補助金、特定教育・保育施設等に係る経費の一部助成等により、子育て家庭の負担軽減を行いました。

施策25 地域における子育て支援の充実

- 一時保育の充実(再掲)
平成27年4月から駅前なかよし保育園第2、7月から市立津久田保育園、9月から由木あすなろ保育園で一時保育を新たに開始しました。
- ショートステイ・ワイライトステイ事業の充実(再掲)
民生委員へのPRやホームページでの周知を通し、受託家庭を募集し、充実を図りました。(延べ利用実績:1,190名)
- ファミリー・サポート・センター事業の充実
平成28年度からの事業拡大(対象年齢を小学校4年生まで→6年生までに拡大、開所時間の拡大)に向け、準備を進めました。
- 「マイ保育園」登録制度の実施
東京都が平成26年度まで保育サービス推進費で補助していたパートナー保育登録事業について、平成27年度での実施状況を調査しました。

施策26 安心して子育てができる環境の整備

- 「赤ちゃん・ふらっと」設置促進
「赤ちゃん・ふらっと」設置補助やPRを行い、新たに14か所の「赤ちゃん・ふらっと」が設置されました。また、平成27年9月から、屋外イベント時などに授乳やおむつ替えスペースを提供する「ベビーテント」の貸出を開始しました。(年度内の貸出件数:11件)
- 「思いやり駐車スペース」設置促進
市内の各施設の駐車場で、歩行に制限を受ける障害のある方、妊娠中の方、乳児を連れている方などを対象に、できる限り優先的に利用していただく「思いやり駐車スペース」の確保を進め、新たに1台分を中田遺跡公園に設置しました。
- 親子参加型イベントの充実
「緑いっぱい・楽しさいっぱい！」の八王子での子育ての魅力を体感してもらうための、親子バスツアー「子育てするなら八王子！八王子『体感』バスツアー」を開催し、八王子の魅力を親子で体験できるイベントとしました。(参加者数:19名) また、公立保育園の子育てひろばでは、子育て応援企業との協力のもと、より多くの親子が参加しやすい「青空ひろば」を開催しました。

屋外での授乳用「ベビーテント」
「助かった！」と多くの親子に好評



公立保育園の「青空ひろば」
親子で体をいっぱい
動かして遊びます！

<ul style="list-style-type: none"> ●ブックスタート事業の推進 図書館でのおはなし会の実施 	<p>赤ちゃんと保護者が絵本を開く楽しい体験のきっかけづくりをするため、3～4か月児健診や3歳児健診時に、絵本の読み聞かせやわらべうた、本やDVDなどのブックスタートパックを渡しました。(3～4か月児健診のみ) (開催回数、参加者数:「3～4か月児健診時」計72回、3,764名 「3歳児健診時」:計72回、4,767名)</p> <p>また、図書館でのおはなし会では、児童・幼児を対象に、読み聞かせ、紙芝居、ストーリーテリング(素話し)、遊戯(指遊び・歌・ゲーム)などを行い、読書習慣の育成につなげました。(開催回数、参加人数:全館合計85回、1,659名)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ●ベビーカーやマタニティマークに対する思いやり啓発の推進など 	<p>広報やポスター掲示を行い、ベビーカーマークの普及、及びベビーカーに対する配慮を啓発しました。また、八王子駅周辺でのベビーカー貸出を開始しました。(月平均35.6台の利用実績)</p>

指標(★は事業計画に掲載しているもの)

(目標値は策定時のもの)

施策	指標	内容	策定時 数値	27年度 実績値	29年度 目標値	31年度 目標値
25	養育協力家庭の数	宿泊型保育を行う養育協力家庭の拡充	14家庭	14家庭	15家庭	16家庭
	ファミリー・サポート・センターの年間活動件数★	ファミリー・サポート・センターの利用促進	6,592件	5,545件	8,206件	8,206件
	「マイ保育園」制度の実施	保育所における地域の在宅子育て家庭への支援の充実	-	未実施	実施	実施
26	「赤ちゃん・ふらっと」設置数	授乳・調乳・おむつ替えなどができる「赤ちゃん・ふらっと」の設置促進	94か所	113か所	110か所	120か所
	「思いやり駐車スペース」設置数	妊娠中や赤ちゃん連れが利用できる「思いやり駐車スペース」の設置促進	56か所	62か所	74か所	86か所

自己評価

施策	評価	
24	B	各種手当・医療費の助成を着実に実施しました。さらに、平成28年度からは、低所得者及びひとり親世帯に対する多子軽減については、認証保育所においても適用するよう進めました。
25	B	一時保育の提供施設を拡充するなど、地域における子育て支援を充実するとともに、「マイ保育園」制度の検討のため、パートナー保育登録事業について、平成27年度に実施状況を調査しました。
26	A	「赤ちゃん・ふらっと」については、目標数以上の設置や新たにベビーテント事業を開始するなど充実させ、安心して子育てができるよう、親子で外出しやすい環境の整備や機会の充実を行いました。

子育て世帯の生活基盤を支えるための経済的支援、子育てに係る保護者の負担軽減を図ることによる仕事と子育ての両立支援、子どもの健やかな成長を地域で見守り支援する環境整備など、子育て世帯への支援事業を展開するとともに、国の地方創生先行型交付金を活用し、ベビーカー貸出事業等、子育てしやすいまちの推進事業を実施するなど、本市における良好な子育て環境を整備しました。

A: 目標以上の成果が得られた B: 計画・目標どおりに達成できた C: 計画・目標どおりに達成できなかった D: 達成できず困難な課題がある

児童福祉専門分科会による評価

B	<p>八王子市独自のサービス提供により、子育てしやすい環境の整備が図られている。「マイ保育園」登録制度については、状況に合った見直しを行いながら進めること。</p>
---	--

今後の課題・平成28年度以降の施策の展開

<p>義務教育就学児医療費助成制度の所得制限を撤廃し、経済的支援の充実を図ります。(平成28年7月開始) 子ども・子育て支援新制度における地域子育て支援事業の着実な実施や、本市ならではの取組により、子育てしやすいまちづくりのさらなる推進を図ります。</p>
--

子育てに関する相談・居場所の充実

PLAN
(計画)

めざす姿

子どもの成長に寄り添い喜びや悩みを分かちあえる人や、子どもの発達や家庭の状況にふさわしい支援をコーディネートしてくれる身近な支援者の存在が、親にとって大きなこころの支えとなり、安心して楽しい子育てへとつながっています。

平成27年度の主な取り組み

施策27 子育てひろばの充実

重点施策8

- 子育てひろばの設置促進
新たに公立保育所9園、私立保育所1園で子育てひろば事業を開始しました。
- 「子育てひろばガイドライン」の策定・実施
「子育てひろばガイドライン」の策定に向けて、市内の子育てひろばの実施状況の確認を行いました。
- 出張ひろばの実施
児童館において、地域の子育てサークルへの支援や市民センターなどでの出張ひろば(体操、工作、手遊びなど)を行いました。(実施回数:81回)
- 子育てひろばの従事者研修の実施
子育てひろば従事者研修(乳幼児健診・予防接種)を実施しました。(実施回数、参加者数:2回、45名)

保育園の子育てひろば→
近くの保育園の子育てひろばに
親子で気軽に参加



←児童館の出張ひろば
児童館が近くにない地域の
子どもたちがたくさん
集まります!

DO
(実行)

施策28 利用者支援の充実

重点施策9

- 保育相談の充実(保活の支援)
本庁舎保育幼稚園課、八王子駅南口総合事務所、南大沢事務所で利用者支援窓口を開設し、また、新たに嘱託員5名を増員し、利用者支援の充実を図りました。
- 「子育てひろばコンシェルジュ(仮)の設置」
子育てひろばに利用者支援員を配置し、地域の子育て資源の情報提供や相談・支援を行っていくために、子育て支援員研修(基本型)の受講を呼び掛けました。
- 利用者支援研修の実施
児童館では、身近な相談場所として子ども自身や保護者からの相談に対応するため、職員の専門性の向上を図る研修を行いました。また、「親子つどいの広場」「親子ふれあい広場」のひろば事業受託者に対しては、利用者支援事業につなげるため、子育て支援員研修(基本型)の受講を呼び掛けました。

指標(★は事業計画に掲載しているもの)

(目標値は策定時のもの)

施策	指標	内容	策定時 数値	27年度 実績値	29年度 目標値	31年度 目標値
27	子育てひろばの設置数★	身近な地域への子育てひろばの充実	38か所	47か所	55か所	55か所
	「子育てひろばガイドライン」の策定・実施	本市独自の「子育てひろばガイドライン」の策定と実施	-	未実施	実施	実施
28	保育相談の実施か所数	保育相談(保活)に対応する行政窓口の充実	-	3か所	3か所	3か所
	「子育てひろばコンシェルジュ(仮)」の設置か所数★	子育てひろばにおける利用者支援の充実	5か所	5か所	11か所	11か所

CHECK
(評価)

自己評価

施策	評価	
27	B	公立保育園の子育てひろばの新設や児童館の出張ひろばの実施により、子育てひろばを拡充しました。また、従事者に対する研修を実施し、利用者支援の内容充実にも努めました。
28	B	保育相談窓口を設け、窓口における利用者支援を充実し、家庭の状況に応じた情報提供を行いました。

子育てひろばの拡充とともに、利用者支援事業(基本型・特定型)の実施体制の整備を図りました。さらに、母子保健型として、「八王子版ネウボラ」の実施に向けた検討を行い、身近な地域で支援を受けたり、相談ができることにより、安心して子育てができる環境を整えました。

A:目標以上の成果が得られた B:計画・目標どおりに達成できた C:計画・目標どおりに達成できなかった D:達成できず困難な課題がある

児童福祉専門分科会による評価

B	全ての公立保育園での子育てひろばの実施など、計画どおり進み、身近な場所で相談ができる環境整備が進んでいる。 「子育てひろばガイドライン」の策定については、利用者支援事業の展開等、子育てひろばの状況を鑑みながら、速やかに検討を進めること。
---	---

今後の課題・平成28年度以降の施策の展開

子育てひろば従事者に向けた研修を実施するとともに、「子育てひろばガイドライン」の策定や子育て支援員研修の受講を促すことで、子育てに関する相談スキルの向上と子育てひろばの充実につなげていきます。また、利用者支援の充実に向け、人員体制の拡充を図っていきます。

よく★コラム

地域の親子に寄り添って ～親子つどいの広場～

子育て中の、特に乳幼児が育てているママやパパが気軽に集って、くつろげる雰囲気の中で語り合い、交流し、育児相談もできる身近な居場所「子育てひろば」。

子ども家庭支援センターや地域子ども家庭支援センターで行っている「親子ふれあい広場」や、保育園で行っている「子育てひろば」と同様に、親子が気軽に集うことができ、安心して過ごせる場所として、「親子つどいの広場」があります。

「親子つどいの広場」は、育児を支援している市民団体などがその運営を行っていて、その地域のママやパパの気持ちに寄り添いながら、子どもたちの成長を共に見守り、利用者のみなさんのニーズに合った子育て支援メニューを提供しています。

毎日、たくさんの親子が訪れる「親子つどいの広場」で、ママ、パパが交流し、子育ての不安や疑問を一人で抱えずにお互いに話したり、スタッフとゆっくり相談したり...子育て中のママ、パパにとって大切な時間を一緒に積み重ねながら、親だけではなく、広場に関わるスタッフもまた成長していきます。

このまちの子育ての最初の一步に、地域のひろばに遊びに来てくださいね。

親子つどいの広場「ゆめきつず」 スタッフからのメッセージ

多くの子どもたちに楽しんでもらい、保護者の皆さんに日頃の育児のストレスを少しでも癒してもらえる広場づくりを心掛けています。

ママやパパが「ほっ」とできる地域の居場所でありたいと思います。

毎日たくさんの親子が集う子育てひろば
一緒に遊んだり、子育て相談ができるほか
育児に役立つ講座やイベントも開催
(写真は救命救急講座の様子)



めざす姿

子育てについての学びの場や仲間づくりの機会が充実しており、子育ての知恵や経験が世代間で継承されています。親としての成長を通じて、喜びや楽しさ、生きがいを感じながら子育てができています。

平成27年度の主な取り組み

施策29 親の学びを支える支援の充実

- 子育てひろばでの学びの機会の充実 子育てひろばの利用者アンケートなどにより、保護者のみなさんのニーズを把握し、「のびのび子育て講座」を充実しました。また、平成27年10月から、子育てひろばにおいて、親の学びを支援するための「育児書」の貸出を開始しました。（新規納品冊数308冊、これに各ひろばで適宜貸出図書を追加。）
- 子育てサークルの育成支援 各地域子ども家庭支援センターに登録している子育てサークルに対して、情報提供や育成の支援を行いました。

施策30 家庭における食育の推進

- 食育講座の実施 公立保育園、各保健福祉センター、子育てひろばなどで、離乳食、幼児食などについて学ぶ食育講座を実施しました。また、公立保育園では、園児の保護者を対象とした給食試食会や親子おやつクッキングなどを開催しました。
- 子育て支援施設における食育活動の充実 11月27日に、「八王子産米の日」として、公立保育園、小・中学校の給食で、地産地消を推進し、地元の農産物に関する理解や食物の生産にかかわる人々への感謝の心を育むことを目的として、高月地区で収穫されたお米を「八王子産の白いご飯」として給食で提供しました。
- 団体や企業による食育活動への支援の充実 食育に積極的に取り組む子育て応援企業から、季節にちなんだ料理やおやつレシピの提供を受け、家庭での実践を促すため、メールマガジン「すくすく☆メール」においてレシピを配信しました。



旬の素材を取り入れた
保育園給食



←親子クッキングの様子
実践を通して、楽しく
食を学びました！

施策31 家庭教育への支援の充実

- 家庭内のルールづくりや
年中行事の啓発 子育てひろばで、季節感のある講座やイベントを実施しました。また、メールマガジン「すくすく☆メール」でも、親子で楽しむ季節の年中行事の由来や楽しみ方、季節の「食」情報などを毎月配信し、啓発を進めました。（主に、妊娠期～2歳までの保護者が対象。1回の配信数：約3,000件）
- 「八王子市の家庭教育8か条」の
普及促進 家庭教育の重要なポイントについてまとめたリーフレット「みんなで育てよう はちおうじっ子」を、市立小・中学校、幼稚園、保育園を通じて各家庭に配布し、家庭内で基本的な生活習慣や社会のマナー等を学び、子どもたちが身に付ける支援をしました。
- 母親・父親教室の充実 茶話会形式のワークショップにより、保護者の心理的負担を軽減し、家庭教育力の向上を図ることを目的に、パパママ支援ワークショップ「星とおひさまフィーカキャラバン」を実施。ワークショップ終了後も親同士が新たなつながりを持つ機会を創出しました。（参加者数：3か所計26名）

指標(★は事業計画に掲載しているもの)

(目標値は策定時のもの)

施策	指標	内容	策定時 数値	27年度 実績値	29年度 目標値	31年度 目標値
29	「のびのび子育て講座」実施数	親子ふれあい広場で実施している「のびのび子育て講座」の充実	1,041回	1,055回	1,065回	1,077回
	子育てサークルの数	子育てサークルの活動への支援の充実	38団体	34団体	40団体	42団体
30	親子クッキングの参加者数	親子で楽しみながらの調理実習を通して、地域の子育て家庭の食育を推進	50組	49組	60組	80組

自己評価

施策	評価	
29	B	子育てひろばにおいて、親のニーズに合った講座の開催や育児書の貸出を通して、親の学びの機会や内容の充実に繋がりました。
30	B	食育に関する講座開催、情報提供、体験の場の提供を通して、家庭における食育を支援しました。
31	B	家庭教育の支援について、多くの家庭に情報が届き、家族で考える機会となるよう、様々な情報媒体を活用した啓発を行いました。

様々な機関での講座実施や啓発リーフレット、メールマガジン等での情報発信により、子育ての様々な場面での保護者への情報提供を実施し、子育て力向上への支援に取り組みました。

A: 目標以上の成果が得られた B: 計画・目標どおりに達成できた C: 計画・目標どおりに達成できなかった D: 達成できず困難な課題がある

児童福祉専門分科会による評価

B	全体的に計画どおり進んでいる。 教育委員会や母子保健事業とさらに連携し、親が子育てについての第一義的責任を有するという基本的認識を踏まえた上で、地域で子育てを支える環境を充実していくこと。
---	---

今後の課題・平成28年度以降の施策の展開

子育てひろばでの講座やイベント、地域の子育てサークルへの支援を通じて、子育てについての学びの場や仲間づくりの機会の充実を進めます。また、保・幼・小連携の取組とともに、家庭への食育の推進を図っていきます。

A
C
T
I
O
N
(改善)



八王子のお米で おいしく元気！



高月町は、水に恵まれた地域で、八王子の米どころ。都内でも一番大きい田園が広がります。食育の取組として、11月27日「八王子産米の日」に、高月町で収穫された八王子産の新米を市内小・中学校や公立保育園の給食で一斉にいただきました。

「おいしい！」と笑顔で完食した子どもたちは、自分たちの住む八王子でこんなにおいしいお米がとれることを体験。地産地消の良さを実感し、郷土愛や生産者への感謝の心を育みました。

高月町の農家 岸 喜美さんから、子どもたちへのメッセージ

子どもたちに地元のお米を食べてもらえて、最高にうれしいです！
収穫したてのお米はピッカピカでとてもおいしいです。ごはんは栄養があって、腹持ちもいいですよ。
ごはんをたくさんたくさん食べて、元気にすごしてくださいね！



八王子産米、ごちそうさま！

めざす姿

市民・企業・大学がつながりながら、地域全体が子どもの育成や子育て支援に参加し、その活動の輪が様々な場所に広がっています。市全体で、次代を担う子どもたちの健やかな育ちを応援し、子育ての喜びや楽しさが実感できるまちづくりが推進されています。

平成27年度の主な取り組み

施策32 子育て支援に関わる市民活動団体への支援の充実

● 子育て支援に関わる市民活動団体への支援の充実

子育て支援団体のネットワークづくりやイベント参加を支援しました。また、市民団体等が開催する子育て支援イベントについては、積極的に後援名義の承認を行い、PR等の協力を行いました。(承認件数:33件)
市内でも大規模な子育てイベント「八王子ふれあいこどもまつり」「ファミリーフェスin はちおうじ みんなのキャンパス」については、実行委員会に参画し、より多くの親子への子育て支援につながるようサポートしました。
また、市民企画事業補助金制度に応募があった市民活動団体が企画した事業について、外部委員による評価等を経て15事業に補助をしました。(うち、子育て・子育て支援に寄与する事業:7件、補助額:7件計 2,406,000円)



「八王子ふれあいこどもまつり」
子どもたちを中心に
約6,500名が来場



「ファミリーフェスinはちおうじ
みんなのキャンパス」
市内外から約21,000名が来場

施策33 企業・大学の参加による地域の子育て支援の充実

● 子育て応援企業の活動支援

「八王子ふれあいこどもまつり」では、子育て応援企業ブースを設け、地域の親子に直接子育て支援のメッセージが伝わる場を提供するとともに、子育て応援企業や子育て支援者のネットワークづくりを支援しました。
また、機関紙「子育て応援企業通信」により特色ある子育て応援企業の取組を紹介したり、各企業が主催する子育てイベントのPR協力を行うなど、子育て応援企業による子育て支援の取組み推進をサポートしました。

八王子ふれあいこどもまつりの「子育て応援企業」ブースー
子どものお仕事体験や一級建築士事務所による
おうちづくりなど、子育て応援企業らしいブースが人気



● 夏休み子どもいちょう塾の充実

大学コンソーシアム八王子加盟25の大学・短大・高専が保有する学部の専門領域を活かしたプログラムとして、市内在住の小学4～6年生を対象に、夏休みの特別講座を12講座開催しました。分野ごとに興味を持たせ、教科へのモチベーションを高めることを目的に開催し、感想として、「実験がとても楽しかった」「裁判をする流れや、法律はどのような意味が分かった」などが挙げられました。(受講者数:234名)

施策34 地域をつなげる子育て拠点づくりの推進

- 子育て支援施設を中心とした地域連携の推進

子育てひろば事業において、地域の団体やボランティアと協力して講座を開催しました。特に、公立保育園では、市の関係機関だけではなく、町会、民間保育園、児童館、学童保育所、Beeネット等と連携し、地域の子育てひろばを実施。平成27年度からは新たに子育て応援企業や大学との連携も始め、より広く子育て支援につながる「青空ひろば」などを開催しました。
児童館では、児童館地域連絡会を開催し、地域の子ども関係機関・団体との連携を強化しました。(開催回数、参加人数:14回、167名)

指標(★は事業計画に掲載しているもの)

(目標値は策定時のもの)

施策	指標	内容	策定時 数値	27年度 実績値	29年度 目標値	31年度 目標値
33	子育て応援企業の登録数(再掲)	子育て応援企業の登録事業所数の拡充	162 事業所	169 事業所	185 事業所	200 事業所

自己評価

施策	評価	
32	B	市民団体のネットワークづくり支援や、イベント開催時の効果的なPR支援などにより、市民活動団体の活動を地域の子育て支援へとつなげました。
33	B	各機関の取組み支援を進めるとともに、5月にフォーラム「ミライ☆ここから・はじまる」を開催し、子育て支援に取り組む市民、団体、子育て応援企業などの支援者がつながる機会を提供しました。
34	B	地域全体で子育てを支えていくためのネットワークづくりについて、継続して取り組みました。また、平成27年度は新たに公立保育所9園、私立保育所1園でひろば事業を開始し、子育て支援の拠点を充実させました。

地域全体で子どもと子育てを支えていくために、実行委員会への参加や後援名義の承認、情報連携などにより市民・企業・大学等との協働を推進し、市民活動や企業活動の支援を行いました。本市の特色ある取組の一つである「子育て応援企業」の登録事業者も着実に増え、また、応援企業の相互連携によりネットワークづくりも進んでいます。

児童館や保育所、子育てひろばにおいては、多くの地域の市民の参加や協力を得て、地域の子育て支援拠点の役割を果たしています。

A:目標以上の成果が得られた B:計画・目標どおりに達成できた C:計画・目標どおりに達成できなかった D:達成できず困難な課題がある

児童福祉専門分科会による評価

B	概ね計画どおり進んでいる。 八王子市の特徴ある取組である子育て応援企業や大学との連携をさらに深め、子育てプロモーションの推進とともに、社会全体で子育てを応援していく取組を継続的に行っていくこと。
---	--

今後の課題・平成28年度以降の施策の展開

子どもとその家庭をとりまく環境は、さらに多様化し、きめ細やかな支援のネットワークづくりが求められていますが、市民活動団体、企業、大学とのネットワークづくりは決して十分ではありません。企業や市民活動団体相互や、異なる活動分野との連携など、本市の市民力を活用した地域で支えあう子育て環境の充実に向けた取組を行っていく必要があります。引き続き、各種イベントや市民活動への支援の充実を行っていくとともに、これらの取組を周知するための情報発信を行っていきます。

また、平成29年春の開設を目指し、中心市街地に子育て世代の活動や交流を支援する拠点を整備していきます。

めざす姿

「子育てプロモーション」活動を通じて、子どもや子育て支援に関する地域の情報や取り組みが繋がりに、親子と地域の様々な人との出会い・交流によって、地域活動が活性化しています。まちへの愛着が生まれ、このまちで子育てしたい、住み続けたいという気運が醸成されています。

子どもの成長が、私たちの未来に関わる大切なこととして、すべての人が関心を持ち、子育てを応援することが地域にとっても豊かな営みとなっています。

平成27年度の主な取り組み

施策35 地域をつなげる子育て情報の発信

重点施策10

- 子育て情報モバイルサイトの運営・子育てメールマガジンの配信

子育て情報モバイルサイト「はち☆ベビ」及びメールマガジン「すくすく☆メール」において、月齢に合った子育て支援情報や旬な子育てイベント情報を「プッシュ型サービス」により発信しました。

- SNSによる情報発信の充実

フェイスブック及びツイッター「すくすく*はちおうじ」において、ビジュアル性・メッセージ性のある情報発信をタイムリーに行いました。(平成27年度末現在、790「いいね!」、80「フォロワー」)

- オープンデータを活用した子育て情報の充実

赤ちゃん・ふらっとデータをオープンデータカタログとして市のHPに掲載しました。アプリ「あなたの街の教えて小児科」にマップと共に情報掲載され、ママ・パパに活用してもらいました。

- 子育てガイドブックの充実など

「子育てプロモーション」をテーマに、子育てガイドブックの巻頭特集で、八王子の子育ての魅力を紹介しました。また、「子育てするなら八王子! 八王子『体感』バスツアー」の開催、「八王子まつり」等のイベント時のPRティッシュの配布など、ママ、パパへの直接的なプロモーション活動も行い、「八王子の子育て、いいね!」の気運の醸成に努めました。

- 子育てタウン情報の発信の充実

多くの愛読者がいるタウン誌「らぶはち」で、市内子育てイベント情報や子育て支援情報等、行政発信の子育て情報を掲載し、効果的な周知を行いました。

子育てするなら八王子!
八王子『体感』バスツアー
の様子



「八王子の子育て、いいね!」

～バスツアーに参加したママ・パパの感想より～

- ・娘は初めての大根収穫で、目がキラキラしていた。今後も、こんな体験をさせてあげたい。
- ・八王子産の野菜、ハチミツ、美味しい♪
- ・ハイパーレスキュー隊、つくしこひろばは、近所で知っていたが初めて働く人の話を聞き、よく知ることができた。
- ・普段は、なかなか子どもにやらせていなかった土遊び、今日は思う存分、手で触り、足で踏みしめました! お昼ご飯も、モグモグ!!

施策36 子育てを楽しむ気運の醸成

- 子ども・子育てフォーラムの開催

フォーラム「ミライ☆ここから・はじまる」を開催し、基調講演やパネリストトークを通して、子どもにやさしいまちづくりや子ども・子育て支援への参画・協働の推進などについて活発な議論が行われ、また、子育て支援者どうしがつながる機会となりました。(参加者: 266名)

- 「ぼくらの八王子」普及・啓発

イベント(たにぞうファミリーコンサート、いちようまつり、ファミリーフェスinはちおうじなど)や、園・学校行事などの機会に、「ぼくらの八王子」を歌い踊る場を設け、「ぼくらの八王子」を子どもたちに楽しみながら親しんでもらう機会をつくりました。



- 家族の日・家族の週間の普及・啓発

家族の日についての広報掲載や、家族の日・家族の週間のチラシの保育園・幼稚園への配布を通し、周知を行いました。

たにぞうファミリーコンサート
「ぼくらの八王子」を
みんなで歌って踊ります!

指標(★は事業計画に掲載しているもの)

(目標値は策定時のもの)

施策	指標	内容	策定時 数値	27年度 実績値	29年度 目標値	31年度 目標値
35	子育て情報モバイルサイト「はち☆ベビ」登録者数の割合	妊婦や3歳未満の乳幼児を持つ保護者の子育て情報モバイルサイトへの登録の促進	-	28.4%	50%	60%
	子育てメールマガジン「すくすく☆メール」登録者数の割合(再掲)	妊婦や3歳未満の乳幼児を持つ保護者のメールマガジン登録の促進	-	9.0%	40%	50%
36	子ども・子育てフォーラム開催	地域社会全体で子育て支援に取り組む気運を醸成するきっかけとなるフォーラムを開催	-	実施	実施	実施

自己評価

施策	評価	
35	B	SNSを活用するなど、子育て情報を発信する媒体にも創意工夫を凝らし、ママ・パパに伝わる発信を行いました。メールマガジンについては、開設1年であり、登録者数がまだ少ない状況です。
36	B	フォーラムの開催や「ぼくらの八王子」の普及・啓発などを通して、子どもたちや子育て支援に関わる地域のみなさんがつながり、地域から子育てを楽しむ気運の醸成につなげました。

子育てしやすいまちづくりの推進として、新たにSNSによる情報発信の開始やベビーカーやベビーテント貸出しサービスを開始したことにより、子育て世代からサービスの充実に対する評価の声がよせられました。また、「子育てフォーラム」や「はちおうじ木育フェスティバル」などのイベントの開催などを通じ、子育て応援企業や子育て支援団体などが連携するきっかけづくりを行いました。本市が進めるシティプロモーションと連動し、本市の子育て環境や自然環境など本市の魅力の発信を様々な媒体を活用して行うことにより、子育て世代への本市への愛着や社会全体で子育てを応援するという気運の醸成が徐々に図られています。

A: 目標以上の成果が得られた B: 計画・目標どおりに達成できた C: 計画・目標どおりに達成できなかった D: 達成できず困難な課題がある

児童福祉専門分科会による評価

B	<p>今期計画での新たな施策であるが、フォーラムの開催をはじめ、計画どおりに進んでいる。</p> <p>SNSによる情報発信については、子育ての悩みや相談等に対して保護者の参加を促す工夫があると良い。</p> <p>また、スマートフォンの特性を活用して、時世に合った視覚的な情報発信を進めること。</p> <p>メールマガジンの周知については、母子保健部門や医療機関等、関係機関と連携し、効果的に進めてほしい。</p>
---	---

今後の課題・平成28年度以降の施策の展開

<p>平成27年度に策定した「八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の重点ターゲットである若年層(子育て世代)に向けて、子ども子育て支援施策の充実を図り、シティ・プロモーションと連動した取組を図っていきます。</p> <p>情報発信ツールであるメールマガジンやSNSの利用者の拡大に向けた周知をさらに行っていくとともに、新たに、ひとり親家庭に向けたメールマガジンの配信や多言語版の「子育てガイドブック」を作成し、子育てプロモーションの充実を図ります。</p>
--

CHECK (評価)

ACTION (改善)



Grow with Kids!

NPO法人 ポケットパーク 代表 保 清人さんからのメッセージ

父親の地域デビューは、子どもが生まれた頃から始まるのだと思います。私も類にもれず、自身の子どもの遊び場づくりから始まった市民活動は、地域とのつながりを生み、地域課題への挑戦と面倒も増え、日々仕事との両輪を迫られています。でも地域が良くなれば、子育ても安泰！私はそのように考えます。

昨年行った子ども・子育てフォーラムではパネリストとして参加し、地域に必要な”子育て機能”をお話いたしました。今後、中心市街地に交流拠点・活動拠点のための場が作られ、”地域が子育てをしていくんだ！”という意志が伝わってきます。民間と行政、またNPOや市民活動団体などの総働が地域ニーズをキャッチした好例になるよう、市民としても応援していきたいと思えます。

一方で、子どもの貧困、虐待などにも焦点を当てた地域づくりも必要です。八王子市として、人間として、親として何ができるのかを共に考えていく機会も、積極的につくっていきましょう！

めざす姿

地域の支援者が、子どもの成長を喜びながら子どもや子育てをサポートし、親同士が、お互い支えあい学びあえる環境が整っています。地域の中で、子育てを通じて人と人とのつながりや支援の輪が広がり、親自身が次代の子育て支援の担い手となる好環境が生まれています。

平成27年度の主な取り組み

施策37 子育てボランティアへの支援の充実

- 子育てボランティアへの参加促進
Beeネットボランティアについて、各地域子ども家庭支援センターでの交流会や全体交流会を通じて、ボランティアへの参加を進めました。また、大学において出前講座を開催し、ボランティアの周知や登録促進を行いました。(登録者数:444名)
- 子育てボランティアへの育成・活動支援
児童館において、大学生や高齢者など地域のみなさんがボランティアとして、児童館事業に携わる機会を創出し活動しました。(児童館の各種健全育成事業に、延べ4,378名のボランティアが参加)



中高生も児童館でボランティア活動
高校生による科学実験や中学生による
ダンボールタウン準備の様子

施策38 子育て支援に関わる人材育成の充実

- 子育て支援に関わる研修やネットワークの充実
市内の子ども支援団体に子ども家庭支援センターの役割や児童虐待防止についての研修を行いました。
- ファミリー・サポート・センターの講習会の充実
提供会員を対象とした講習会や研修を行い、研修内容を充実しました。(開催回数、参加者数:年2回、81名)

指標(★は事業計画に掲載しているもの)

(目標値は策定時のもの)

施策	指標	内容	策定時 数値	27年度 実績値	29年度 目標値	31年度 目標値
37	子育て応援団Beeネットの登録者数	子育てボランティアの周知による登録者増加と活動支援の充実	441人	444人	480人	516人
	児童館ボランティアの登録者数		987人	642人	1,196人	1,276人
38	ファミリー・サポート・センター提供会員数	保育などの育児支援を行う提供会員の拡充	691人	706人	731人	751人

自己評価

施策	評価	
37	B	交流会等を通じて、Beeネットボランティアを周知し、登録促進しました。児童館ボランティアの登録数については、児童館と協力関係にある子ども関係サークル所属学生の減により減少しましたが、今後、PR活動や児童館での大学生会議を通し、充実していきます。
38	B	講習会を通じて、ファミリー・サポート・センターの提供会員の拡大に努めました。

子育てボランティアの登録を促進することで、地域で子育てを支え合い、子育てを通じて支援の輪が広がる仕組みづくりに取り組みました。また、学園都市である本市の特徴を活かし、大学生のインターンシップやボランティア活動を積極的に受け入れました。

A:目標以上の成果が得られた B:計画・目標どおりに達成できた C:計画・目標どおりに達成できなかった D:達成できず困難な課題がある

児童福祉専門分科会による評価

B	概ね計画どおり進んでいる。 今後は、地域福祉という視点から社会福祉協議会との連携を進め、また、地域福祉推進拠点事業との連携について検討を行っていくこと。
---	---

今後の課題・平成28年度以降の施策の展開

子育て支援に関わる個人や団体のネットワークづくりを進めるとともに、子育てボランティア及びファミリー・サポート・センター提供会員に対する講習を実施し、地域で子育て支援に関わる人材の育成を図ります。
 本市の地域福祉のあり方として、高齢者福祉・障害者福祉とも関連し、包括的な仕組みを検討していきます。

よくよく★コラム

つながって広がる ～市民活動支援の現場より～

NPOさぽーと802(八王子市市民活動支援センター) コーディネーター 辻村 千枝子さんからのメッセージ

地域の課題は、年々、多様になっています。そうした地域の課題の解決に向け、自由な発想で活動できる市民活動団体が、今、大きな力を発揮しています。

最近、子どもの6人に1人が貧困というショックな現状が問題となっていますが、八王子では、こうした子どもたちを支援しようと、無料学習塾や子どもたちが一人でも行ける「子ども食堂」の活動が始まっています。

NPO法人八王子つばめ塾は、2012年に一人の現役の高校の先生が始めた無料学習塾です。今では、活動の主旨に賛同した多くのボランティア先生が集まり、教室も数か所になりました。

創価大学の学生が始めた「はちおうじ子ども食堂」は、様々な人との関わりを大切に、会場の提供、食材や備品の寄付、そしてボランティアなどの支援を受け、一年を迎えました。

これら二つの活動は、「子どもの貧困」への関心を高め、ボランティアや、同じような活動を始めようとする人たちへとつながり、様々な形で市民のみなさんに影響をもたらしてくれています。

市民活動は、一団体では小さな効果しか生み出すことはできないかもしれません。しかし、活動によって多くの人を感化し、地域に大きな波及効果をもたらす可能性があることを改めて感じました。

市民活動は、誰もが地域の課題に、自由な発想で取り組むことができます。そして、「誰かのために行動すること」は、誰かのためであると同時に、自分自身の生きがいや、やりがいにもつながります。

市民のみなさんが、自分のできる範囲で、気軽に市民活動に参加できるよう、NPOさぽーと802では、様々なサポートを行っていきたくと思っています。



めざす姿

地域の関係機関の連携が進み、親の子育ての不安や負担感が早期に軽減され、児童虐待を予防する環境が整っています。やむを得ず家族と離れて暮らす子どもがあたたかな環境で育ち、次代を築いていくための支援体制がつけられています。

平成27年度の主な取り組み

施策39 児童虐待の予防や早期発見・早期対応の充実

重点施策11

- 児童虐待の予防や早期発見に向けた体制の充実
妊婦健康診査、こんにちは赤ちゃん事業、乳幼児健診事業等、親子と面話し話を伺う機会を継続的に実施しました。さらに、「八王子版ネウボラ」開始のための体制づくりを進め、児童虐待の予防・早期発見に努めました。
- 産前・産後サポート事業の実施（再掲）
平成27年6月から家庭にヘルパーを派遣して、家事のお手伝いをするサービス「ハローベビーサポート」事業を開始し、産前・産後期の支援を行いました。（延べ利用数：204回）
- 養育支援訪問事業の充実
子育ての負担、不安を抱える家庭に対して、育児・家事支援や訪問相談を行いました。（支援の必要な家庭へのヘルパー派遣件数：延べ336件）
- 子育てひろばの充実
早期からの支援につなげるため、児童館では妊産婦を対象とした「プレママ・プレパパ児童館体験」開催や、乳幼児の保護者の孤立化を防ぐための仲間づくりのプログラムを実施する「乳幼児クラブ」などを開催しました。（実施回数2,219回、延べ参加者数36,669名）

施策40 児童虐待防止ネットワークの充実

- 地域版実務者会議の実施
中学校区ごとに関係機関が連携し、よりきめ細やかに、個別ケースについての情報共有と対応の検討を行いました。（12地域）
- 居所不明児への対応強化
健康診断未受診者など居所不明な子どもについて、関係機関で連携して対応し、支援の必要な家庭の早期発見に努めました。
- オレンジリボンキャンペーンの推進
児童虐待防止推進月間中（11月）、マルベリーブリッジやいちょう祭りで、オレンジリボンを配布するなど、児童虐待防止についての啓発活動を行いました。また、地域のスポーツチームや子育て応援企業などにもオレンジリボン着用や周知啓発の協力をいただき、キャンペーンを行いました。
- 児童虐待防止研修の充実
小・中学校、保育所の教職員や民生委員などを対象に、児童虐待防止研修を実施しました。また、子ども家庭部職員を中心に、子ども支援スキルアップ研修を行いました。（初級研修（1回2日間）参加者数22名、中級研修（1回2日間）参加者数13名）



施策41 社会的養護を必要とする子どもへの支援の充実

- 里親制度の普及啓発・里親開拓の推進
養育体験発表会において、里親の体験発表と講演を実施し、里親制度の周知を図りました。また、八王子児童相談所と連携し、養育体験発表会で相談ブースを設置し、対応しました。

施策42 外国人家庭への子育て支援の充実

- 多言語版子育て情報の発信
市の子育て支援情報を集約した「子育てガイドブック」の多言語版（特に必要度の高い情報について、英・中・韓及び易しい日本語で表記）の発行に向け、平成28年度予算を確保しました。また、補助事業として日本語を母国語としない親子のための高校進学ガイダンスを支援し、中学・高校教師の協力を得ながら、日本の教育の仕組みの理解や進学に関するアドバイスを、5言語の通訳を配して実施しました。（参加者数：48名（生徒19名 保護者など29名））

指標(★は事業計画に掲載しているもの)

(目標値は策定時のもの)

施策	指標	内容	策定時 数値	27年度 実績値	29年度 目標値	31年度 目標値
39	妊婦健康診査 受診率★	母体への負担や不安が大きい妊娠早期から、保健指導や相談支援を行い、個々の家庭が抱える問題を把握し、適切な支援を継続することで、児童虐待を予防	74%	76.8%	74%	75%
	こんにちは赤ちゃん事業 訪問率★		93%	95.2% (概数)	93%	93%
	3～4か月児健康診査 受診率		96%	97.0%	98%	100%
	産前・産後サポート事業の実施(再掲)	産前・産後期に、訪問相談の専門員や家事・育児ヘルパーを派遣する事業の実施	-	実施	実施	実施
	養育支援訪問事業 訪問件数★	子育ての負担を感じる家庭への育児・家事支援や訪問相談を実施	-	2,044件	2,383件	2,707件
40	地域版実務者会議の実施	中学校区ごとに要保護児童対策協議会を実施し、関係機関の連携を強化	10地域	12地域	25地域	37地域
	「子ども支援ワーカー1級」を付与する職員数	子ども支援スキルアップ研修により、ケースマネジメントや人材育成に取り組む職員を育成	7人	10人	16人	20人
	児童虐待防止研修の実施	学校や児童福祉施設の職員に向けて、児童虐待防止に関する研修を実施	-	実施	実施	実施

自己評価

施策	評価	
39	B	子育てひろばや親子向け講座の充実、産前・産後の家庭の支援事業の開始、さらに「八王子版ネウボラ」の開始準備等により、児童虐待を予防・早期発見につながる仕組みづくりを多面的に実施しました。
40	B	様々な団体と連携し、市民への児童虐待防止に向けた啓発を進めるとともに、関係機関に対して児童虐待防止研修を実施しました。
41	B	八王子児童相談所と連携しながら、里親制度の普及・啓発を行いました。
42	B	「子育てガイドブック多言語版」の平成28年度発行に向けて、準備を進めました。

産前・産後サポート事業を新たに実施するなど、妊娠から出産・育児まで、切れ目のない情報提供と支援を充実させることで、児童虐待の予防や早期発見・早期対応に取り組むとともに、中学校区ごとの地域版実務者会議を推進し、虐待防止ネットワークの充実を行うなど、子どもと家庭への支援体制の充実を図りました。

A: 目標以上の成果が得られた B: 計画・目標どおりに達成できた C: 計画・目標どおりに達成できなかった D: 達成できず困難な課題がある

児童福祉専門分科会による評価

B	全国的に児童虐待の件数が増えている中、重要な施策であるが、概ね計画どおり進んでいる。 なお、虐待対応・防止のため、地域版実務者会議について、中学校単位に実施することにより、子ども家庭支援センターの負担が増えると思うが、形だけにならないよう実効性のある進行管理を行うこと。また、子育てひろば従事者に対する研修を実施していくこと。
---	--

今後の課題・平成28年度以降の施策の展開

八王子版ネウボラと様々なサービスの連携により児童虐待の予防や早期発見に努めるとともに、「要保護児童対策地域協議会」においては中学校区単位での分科会の実施箇所を増やし、きめ細かなネットワークの構築を進めます。



チームスローガンは「子ども達に夢と未来を！」 ～東京八王子トレインズからのメッセージ～

子どもへの虐待防止について、地域で共に考えていきたいと、オレンジリボンキャンペーンの普及・啓発活動に積極的に協力しています。また、ホームゲームでは毎試合、児童養護施設への寄付のための募金活動を実施しています。

今後も、子どもたちの笑顔のため、地域に貢献するバスケットボールチームとして、積極的に活動してまいります。

皆さんにもぜひオレンジリボンキャンペーンにご賛同いただき、地域で共に子どもたちの夢と未来を見守っていきましょう！

障害児支援の充実

めざす姿

障害のある子どもを支えるネットワークが充実し、できるだけ早い時期から子どもと保護者への切れ目のない支援が行われており、子どもが地域の中で安心して成長しています。障害のある子どもの特性や成長に合わせた支援や居場所づくりが進んでおり、子どもが将来、社会参加や自立した生活を実現するための力が育まれています。

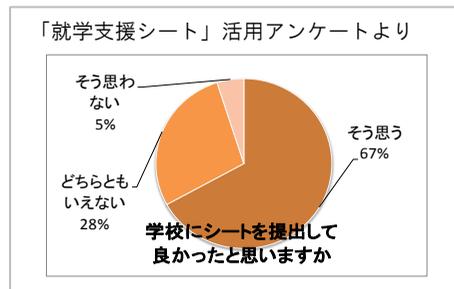
平成27年度の主な取り組み

施策43 障害のある子どもの支援体制の充実

- 障害児支援検討委員会による施策の推進
- 障害児支援に関する切れ目のない情報提供の充実
- 「就学支援シート」活用の推進

平成27年11月、これまでに設置していた障害児支援検討委員会(庁内組織)を改め、障害児のライフステージに即した切れ目のない支援に関する現状把握と情報共有、検討・活動するために相談支援事業所、病院、学校等の障害児関連機関を含めた新たな組織として、障害者地域自立支援協議会「子ども部会」を設置し、部会を開催しました。

就学支援シートを利用した保護者へのアンケートを実施し、その結果を公開するとともに、教職員向けの研修会を実施し、活用の推進を図りました。



- 学校へのシート提出にあたって心配なこと
「学校で活用されるか」約53%
「子どもにとって必要か」約18%
「プライバシーのこと」約15%
 - 学校への提出後に面談を行ったか。
「行った」約71% 「行っていない」約18%
- ※保護者との面談やフィードバックがあると、保護者の満足度が高い傾向があります。



施策44 障害の早期発見・早期支援の充実

重点施策12

- 発達相談の充実
- 巡回発達相談の充実

保健福祉センターにおいて、地域の関係機関と連携しながら、心理発達相談を行いました。

幼稚園・保育施設で、臨床心理士による巡回発達相談を実施し、担当する保育士に的確なアドバイスを行い、保育支援につなげました。(実施件数:259回)

施策45 障害児保育や障害児の居場所づくりの推進

- 教育・保育施設や学童保育所での障害児受け入れの充実
- 子育てひろばの充実

保育者を対象にインクルージョン保育やケーススタディ等の講座・研修を行い、保育施設における障害児の受け入れ体制の充実を図りました。また、保育所、幼稚園に臨床心理士等を派遣し、発達に遅れがあるなど気になる子どもに対する巡回発達相談を実施し、保育士等に対する支援を行いました。

学童保育所では職員を加配し、1施設あたり4人まで障害児を受け入れました。また、特別支援教育に関する施策と目標、そのための具体的な取組を示した「八王子市第三次特別支援教育推進計画」を策定しました。(平成28～30年度までの3か年計画)

障害がある子どもにも利用しやすい子育てひろば「つくしっこひろば」を、津久田保育園に開設しました。また、親子つどいのひろば「ゆめつきっず」では、発達支援アドバイザーが常駐し、子どもの発達についての相談を受けました。

津久田保育園の「つくしっこひろば」→
通常の子育てひろば機能に加えて、楽しみながら感覚が刺激される遊具を設置するなど、障害がある子どもにも利用しやすい。



- 児童発達支援・放課後等ディサービスの充実

児童発達支援・放課後等ディサービスの利用希望者の相談・情報提供を継続して行いました。

指標(★は事業計画に掲載しているもの)

(目標値は策定時のもの)

施策	指標	内容	策定時 数値	27年度 実績値	29年度 目標値	31年度 目標値
43	障害児支援に関する切れ目のない情報提供の充実	子どもの成長・発達に応じた、継続的なきめ細かい情報提供の充実	-	実施	実施	実施
	新入生に占める「就学支援シート」の利用割合	支援や配慮が必要な子どもの情報が小学校への引き継がれ、個別支援の継続を推進	7.2%	7.8%	8.5%	9.8%
44	巡回発達相談の実施件数	教育・保育施設への巡回発達相談の充実	276回	272回	322回	329回
45	放課後等デイサービスの利用者数	障害がある子どもが、放課後などに安心して過ごせる居場所の拡充	593人分	699人分	1,050人分	-

自己評価

施策	評価	
43	B	平成27年12月、「障害者地域自立支援協議会」第1回「子ども部会」を開催し、障害児関連所管及び機関の取り組み内容について情報共有をしました。また、就学支援シートについての啓発が進み、利用者数が増加しています。
44	B	発達相談については、関係機関との連携を図ったことにより、さらに効果的な発達支援を行いました。また、巡回発達相談については着実に実施し、障害の早期発見・早期支援を行いました。
45	B	放課後等デイサービス利用者数の増加や、平成27年7月「つくしっこひろば」の開設等、居場所づくりが進みました。
<p>障害のある子どもを支える取組として、就学支援シートの活用など着実に関係機関の連携が進んでおり、巡回発達相談による早期からの支援体制も充実・強化されてきています。</p>		

A: 目標以上の成果が得られた B: 計画・目標どおりに達成できた C: 計画・目標どおりに達成できなかった D: 達成できず困難な課題がある

児童福祉専門分科会による評価

B	<p>概ね計画どおり進んでいる。</p> <p>障害者施策所管と連携を取り、児童発達支援センターの機能充実、障害児権利擁護の仕組みの充実を図ること。また、学校や学童保育所において、障害に対する教職員の理解促進や学童保育所での障害児受入の充実は、障害児を支えるために重要な課題であるので、遺漏ない対応を進めること。</p>
---	--

今後の課題・平成28年度以降の施策の展開

<p>臨床心理士の増員による巡回発達相談の強化や、医療機関などの関係機関とのネットワークをさらに充実することで、配慮が必要な子どもと家庭を切れ目なく支える環境づくりを進めていきます。</p>

めざす姿

ひとり親家庭への総合的な支援が充実し、母親や父親が継続的な就労によって経済的に安定しており、安心して子育てができています。家族がふれあうゆとりある生活を送っており、子どもたちは、未来への希望を持ちながらいきいきと学び、心豊かに成長しています。

平成27年度の主な取り組み

施策46 ひとり親家庭の就業・自立支援の充実

重点施策13

- 「母子家庭等就業・自立支援センター事業」の実施
母子家庭就業・自立支援センター事業として、就労支援事業(就労アシスト八王子に委託)・就業支援講習会等事業(セミナー・パソコン講座開催)・地域生活支援事業(養育費講座・養育費相談)・ニーズ把握活動等事業(アンケート調査)を実施しました。
- 母子・父子自立支援プログラムの策定など
各家庭の実情に応じた母子・父子自立支援プログラムを策定しました。(53件) また、就労支援(77件)、高等職業訓練促進給付金の支給(31名)、自立支援教育訓練給付金の支給(4名)などにより、自立支援を行いました。

施策47 ひとり親家庭への生活・経済的支援の充実

- 経済的支援の充実
児童扶養手当・児童育成手当の支給、ひとり親家庭等への医療費助成事業の実施により、ひとり親家庭への経済的支援を行いました。
また、ひとり親家庭の自立をサポートするため、母子父子福祉資金の貸付を行いました。(母子福祉資金貸付件数 269件 父子福祉資金貸付件数 11件)
- ひとり親家庭への配慮の確保
保育所・学童保育所などの入所配慮や、市営住宅の入居者募集における優遇抽選制度を実施しました。
- ひとり親家庭の生活の支援
ひとり親家庭の生活を支援するため、ホームヘルパーを派遣しました。(派遣世帯 21世帯 派遣回数 773回) また、母子生活支援施設への入居措置(2世帯)、母子等緊急一時保護(1世帯)を行いました。

施策48 ひとり親家庭で育つ子どもへの支援の充実

- 学習支援の実施
ひとり親家庭の子ども(小学校5・6年生)の生活力向上・学習支援事業「なんでもチャレンジ」を実施しました。(全5回 延べ参加者数:64名)
また、児童扶養手当全部支給世帯の中学生に対して、学習支援事業を実施しました。
- 生活力の向上に向けた体験活動の実施
- 親子心のふれあい事業の実施
マル親医療証対象世帯にコニカミノルタサイエンスドーム入館料及びプラネタリウム観覧料の減免事業を実施しました。(免除対象人数 大人(高校生を含む) 148人 子ども(4歳以上中学生以下) 147人)



生活力向上・学習支援事業「なんでもチャレンジ」
「子どもにとっていろいろな経験ができ、人と接する機会になった。子どももとても喜んで帰ってきました。」
とのお声を、参加者のお母さんからいただきました。

施策49 ひとり親家庭への相談・情報提供の充実

- 母子・父子自立支援員による相談・支援の実施 母子・父子自立支援員による相談・支援を行いました。(年間相談者数 1,332名)
- ひとり親家庭への情報提供の充実 ひとり親家庭のみなさんを対象とした制度などをまとめた「ひとり親家庭のしおり」の作成・配布をしました。また、八王子駅南口総合事務所での出張相談を行いました。(年間相談者数 11名)

指標(★は事業計画に掲載しているもの)

(目標値は策定時のもの)

施策	指標	内容	策定時 数値	27年度 実績値	29年度 目標値	31年度 目標値
46	母子・父子自立支援プログラム策定件数	家庭の状況に応じた自立支援プログラムの策定による自立・就労支援の充実	25件	53件	60件	60件
	母子家庭の就業者のうち、正規職員・自営業の割合	母子家庭への総合的支援による、安定した就労の促進	35%	44%	38%	40%
47	ひとり親家庭の交流会の実施	ひとり親家庭の親同士が交流する機会の充実	-	未実施	実施	実施
48	ひとり親家庭への学習支援の実施	ひとり親家庭で育つ子どもたちへの学習支援の実施	-	実施	実施	実施
49	ひとり親家庭へのメールマガジンの発行	ひとり親家庭に向けたメールマガジンの発行	-	未実施	実施	実施

自己評価

施策	評価	
46	B	母子家庭就業・自立支援センター事業、母子・父子自立支援プログラムの策定等により、ひとり親家庭の父母の雇用促進に向け、就労支援サービスを展開しました。
47	A	ひとり親家庭に対し手当や貸付等の経済的支援、ホームヘルパー派遣や母子生活支援施設の入所措置などにより、生活を支援しました。
48	A	ひとり親家庭に対し家庭学習支援及び体験活動を実施するとともに、親子でふれあえるように配慮を行い、支援を充実しました。
49	B	母子・父子自立支援員が、ひとり親家庭の個々の状況に応じてきめ細やかな相談支援を実施しました。

様々な環境に置かれたひとり親家庭に対して、生活基盤の安定化や教育力の向上を図るため、自立した生活の実現に向けた支援や子育てに係る負担の軽減に向けた相談や支援、ひとり親家庭の子どもが抱える教育上の課題や生活力向上に向けた支援などを実施し、本市におけるひとり親家庭の子育て支援の充実・向上を図りました。

A: 目標以上の成果が得られた B: 計画・目標どおりに達成できた C: 計画・目標どおりに達成できなかった D: 達成できず困難な課題がある

児童福祉専門分科会による評価

A	ひとり親家庭の支援については、多面的な支援体制の充実が図られている。 平成28年度開始予定のひとり親家庭へのメールマガジン配信については、数値目標管理や、ひとり親の子どもたちへの情報発信も検討すること。
---	--

今後の課題・平成28年度以降の施策の展開

ひとり親家庭への学習支援・生活力向上のための事業に新たに取り組んでいきます。
また、情報提供の充実のため、ひとり親家庭向けのメールマガジンの配信を行うとともに、ひとり親家庭の生活環境向上の支援のための親同士の交流機会の確保・推進を図っていきます。

子どもの貧困対策の推進

PLAN

めざす姿

貧困家庭で生まれ育った子どもの将来が、その環境に左右されることのないよう、必要な支援の充実と教育の機会均等が図られています。すべての子どもたちが未来への夢と希望を持ちながら、自立に向けて成長しています。

平成27年度の主な取り組み

施策50 子どもへの教育・生活支援の推進

重点施策14

● 学習支援の実施

平成27年4月の生活困窮者自立支援法の施行に伴い、従来の生活保護世帯の中学生に加え、児童扶養手当全部支給世帯の中学生にまで対象者を拡大して、学習支援を実施しました。
また、学習支援会場についても2か所増設し、機会の充実を図りました。

～学習支援事業 参加者より～

生徒より

「学習の習慣が付き、学校だけでは理解不足なところも教えてもらい、ありがたい。」

「いつも楽しく学習している。」

保護者より

「成績が上がって、子どもも喜んで通っている。意欲的に参加している。」



● 生活力の向上に向けた体験活動の充実

子育て支援課と児童館が連携し、ひとり親家庭の子ども(小学校5・6年生)の生活力向上・学習支援事業「なんでもチャレンジ」を実施しました。(全5回 延べ参加者64名)

● 子どもの貧困を支援する市民活動団体などへの支援の実施

市民活動支援センターの広報紙において、子どもの貧困支援・居場所づくりに取り組む「はちおうじ子ども食堂」の特集記事を組み、活動を紹介するとともに、団体を支援するための寄付も呼びかけました。(発行部数:5,000部、市民センターなど市の施設で配布)



はちおうじ子ども食堂を特集→
(2015年7月1日号)

施策51 保護者への就労・経済的支援の推進

● 就労支援の充実

生活保護受給世帯及び生活困窮世帯に対して、これまでの就労支援員やハローワークによる支援に加えて、平成27年度からはキャリアカウンセリング、求人開拓、就職後の定着支援を行う就労アシスト八王子及び若年者の就労準備を行う就労準備支援事業を委託事業として実施し、就労支援メニューを拡充しました。
(ハローワーク依頼者数 389名、就労アシスト八王子依頼者数 349名)

● 経済的支援の充実

児童扶養手当の支給や母子・父子福祉資金の貸付など、子育て世帯への経済的支援を実施しました。

DO (実行)

指標(★は事業計画に掲載しているもの)

(目標値は策定時のもの)

施策	指標	内容	策定時 数値	27年度 実績値	29年度 目標値	31年度 目標値
50	学習塾(無料学習教室)設置数	生活困窮者家庭の子どもに対する学習支援の充実	4か所	6か所	拡大	拡大
	生活保護家庭における中学校卒業者の進学率	生活保護家庭における、学習支援による進学率の向上	88%	91.9%	90%	95%

CHECK (評価)

自己評価

(目標値は策定時のもの)

施策	評価	
50	A	生活保護世帯に加え、新たにひとり親家庭の子どもへの学習支援事業を開始し、対象となる子どもに対して、学ぶ意欲をサポートし、学力の向上を図りました。
51	B	支援メニューを拡充し、個々に応じた就労支援に取り組みました。

所得の少ない世帯やひとり親家庭の子どもの教育力や生活力向上を図るため、保護者に対する就労支援などの自立支援や経済的な支援を行うとともに、子どもたちが充実した環境の中で生活できるよう、生活力向上・学習支援などの子どもに対する支援を行いました。

A: 目標以上の成果が得られた B: 計画・目標どおりに達成できた C: 計画・目標どおりに達成できなかった D: 達成できず困難な課題がある

児童福祉専門分科会による評価

B	概ね計画どおり進んでいる。 今後も、サポートを必要とする子どもにピンポイントに支援が届くよう、仕組みづくりをしてほしい。 また、子ども食堂の取組などは社会全体で支えることが必要である。一過性とならずに継続したしくみとなるよう、フードバンクと連携するなど、安定した運営が図られるとよい。
---	--

今後の課題・平成28年度以降の施策の展開

子どもの貧困対策に包括的に取り組んでいくための庁内連携の仕組みを整えていくとともに、市民・地域と協働した子どもとその家庭への支援体制について検討していきます。



まぐずく★コラム

一緒に食べたい人がいる
～はちおうじ子ども食堂～



「はちおうじ子ども食堂」は、八王子に住む学生と地域の大人が中心となって、月に1回オープンする食堂。子どもたちに、安価で安全な食事と、安心できる居場所を提供することを目的に、活動を続けています。

メニューには地元の農家が作った採れたての野菜を使って、地域のボランティアさんと作ります。開店時間になると、親子が来店し、ボランティアの学生と遊んだり、地域の高齢者と談笑したり。そして、ご飯ができたなら、みんなで「いただきます！」
「はらぺこ」と「ひとりぼっち」がいないまちへ ～はちおうじ子ども食堂の想いは、地域に広がってきています。

「はちおうじ子ども食堂」からのメッセージ

はちおうじ子ども食堂は、平成27年2月より、子どもの貧困問題を何とかしたいと思っていた学生が運営主体となり、地域の大人の方々の協力を得て始めました。「食堂」ということで、ご飯を食べることがメインのように感じられますが、はちおうじ子ども食堂では、ご飯を食べたその後の時間を一番大切にしています。

自分と向き合ってくれる地域の大人や学生が食堂に集う中で、子どもたちが家や学校では出せない色んな自分を出せるようになっていく、そんな時間をつくっていききたいと思い、日々活動しています。

